

【取組内容①】「クラスルームを活用したラーニングガイドの共通実践」

取組内容

クラスルームを活用し、ラーニングガイド(学習の手引き)を示し、生徒自身が学びの見通しをもって学習に取り組めるようにした。

工夫点

大まかな記載事項のみ共通として、各教科でよりよいラーニングガイドとなるように工夫している。生徒がこのラーニングガイドをもとに見通しをもって学習できるようになることを目指している。

<p><b>理科</b> 第3章 水溶液の性質 第1時</p>	<p><b>国語</b> 目：古典作品に描かれた人々の姿から、読み手としての面白さについて考えよう。</p>	<p><b>社会</b> から弥生への変化 12/20 (最終編集: 2023/12/20)</p>
<p>【課題】 「物質が水に溶ける」とは、どのような意味があるのかを調べ、めあて・課題・本時のゴール などを設定する。</p> <p>【手帳】 ① 今日の課題に対する「めあて」を学習シートに記入する。 ② 教科書105や実験動画を観て実験を行う。 ③ (ステップ1: 水に入れる前の質量をはかる ステップ2: 水を入れた後の質量をはかる) 実験の結果をスライドにまとめ、授業の流れ・活動の流れ などを観察する (ミニ指導案な感じ)。 ④ 結果を参考に考察 (水に溶ける物質と溶けない物質を水に入れて時の共通点と違う点は何か?) をまとめる。 ⑤ 今日の課題に対するまとめを学習シートに記入する。 ⑥ 今日の学習の振り返りを学習シートに記入する。</p> <p>【評価基準】 B評価: 適切に実験を行い、物質が水に溶けるか、溶けないかを説明できる。 A評価: 適切に実験を行い、結果を考察し、まとめることができる。</p> <p>実験動画 1.mp4 実験動画 2.mp4 必要な資料やソフト など ろ過の仕方.mp4 Google スライド</p>	<p>【身につけたい力】 ① 歴史的仮名遣いや古典特有の文末表現に慣れる。 ② 古典作品に描かれた当時の価値観を知り、古典を学ぶ意義について自分の考えを持つ。</p> <p>【活動内容】 ・ 当時の人々と現代の人々の考え方を比較して、古典を学ぶ意義について自分の考えを持つ。</p> <p>【授業の流れ】 ① 音読をする。 ② かくや婚の行動から心情を考える。 ※ 前回の確認 ③ 課題「現代の日本人の価値観と昔の日本人の価値観を比較して気付いたことや考えたことを書こう」 ④ 考えたことを共有する ⑤ 「古典の面白さ」って何だろう？ ⑥ まとめ「古典を学ぶ意義について改めて自分の考えをまとめよう」</p> <p>【評価】 &lt;思考・判断・表現&gt; ・ 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、古典作品の価値について考え、自分の考えを確かなものにする。 &lt;主体的に学習に取り組む態度&gt; ・ 進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って、古典に描かれた人間の心のありようについて話し合おうとしている。</p>	<p>【本時の課題】 縄文・弥生時代の日本列島の人々の生活には、どのような特徴があったのだろうか</p> <p>【本時の流れ】 1. 教科書p.26-27を読み、本文と資料を線で結ぶ。 2. 課題に対する予想を記入する。 ※ ここからはすべてスプレッドシートを使います。 3. 本時の目標 (何レベルまでの達成を目指すか) を設定する。 Lv.1 縄文時代の人々が行っていた食料の集め方は？ Lv.2 食料の保存などのために使われた土器の名前と特徴は？ Lv.3 人々はどんな家に住んでいた？ Lv.4 家の近くにあった「貝塚」(かいつか) って何？ Lv.5 「土偶」(どくわう) は何のために作られた？ Lv.6 ①弥生時代に伝わった農業、②農業に使われた道具・建物 Lv.7 人々が暮らしていた場所は？ Lv.8 稲作と一緒に中国や朝鮮から伝わったモノとは？ Lv. MAX 課題に対するまとめ ※Lv. MAXが本時の課題に対するまとめになります。</p> <p>※みなさんが入力したものは先生がチェックし、<b>パッチリならピンク色、不完全なら水色</b>に記入らんの色を変えます。自分の記入らんが水色になった人は、もう一度そのレベルの課題を解きなおし、<b>ピンク色</b>になるまでチャレンジしてください。</p> <p>4. 本時の振り返りと自己評価を記入する。 Lv. MAXまで終わって時間が余った人へ 自己評価の右側にチャレンジ課題があるので、ぜひ取り組んでください。 自分の考えが出せたら、同じようにチャレンジ課題に取り組んでいる友達を見つけて、意見交換をしてくださいね。</p>

取組後の変容

授業の流れがラーニングガイドで可視化されたことで、授業中に教師が説明を行う時間を短縮でき、生徒一人一人が自ら主体的に授業に取り組みやすくなった。また、生徒自身でラーニングガイドを見直し、次の過程に進む姿が見られた。教師側では、支援を必要としている生徒への支援を行う時間が増えることにつながった。